【事業名】北海道十勝地域タンチョウ越冬地分散推進事業
（北海道十勝総合振興局管内市町村）　【団体名】一般社団法人タンチョウ研究所

令和５年度　生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

日本のタンチョウは、大規模な給餌場が存在する釧路総合振興局管内に全体の約9割の個体が越冬していると考えられている。そのため、個体が集中する給餌場などで鳥インフルエンザ等の感染症が発生した場合、個体数が大きく減少するリスクを抱えている。実際に、昨年度は1例、今年度は4例の高病原性鳥インフルエンザ感染が確認された。そこで、釧路地域以外での個体数割合を増加させ、生息地の分布拡大を促進する具体的な方策を検討するため、十勝総合振興局管内（以下、十勝管内）におけるタンチョウの生息・分布状況調査を実施し、当該地域における生息環境整備（主に社会環境整備）に寄与することを目的とする。

給餌場に集まるタンチョウ

事業の内容

事業①　生息環境整備に向けたタンチョウモニタリング調査事業

方法：当該管内の市町村を自動車で移動し、本種の発見に努めた。個体を認めた際には、日時、位置情報、個体数（判別可能な場合は、成鳥・幼鳥別）および環境等を、また、可能な場合はUAV、暗視鏡、デジタルカメラやビデオを使用し映像を記録した。予備調査として10-11月に8回、本調査として12-2月に29回実施した。なお、補足調査として3月に1回実施した。

結果：タンチョウ確認数および生息確認市町村数
2023年12月：189羽（195羽）、10町（9町）
2024年 1月：184羽（138羽）、10町村（8町）
2024年 2月：182羽（204羽）、 9町（12町村）
（注）括弧内は前年度の結果
昨年度同様、確認地点の環境は12月は収穫後のデントコーン畑、1-2月は河川や農家敷地（牛舎脇、堆肥置場やバンカーサイロ等）が多かった。

- 北海道実施の令和5年度第2回タンチョウ越冬分布調査前に、調査箇所に関する情報提供を行った。

堺としていた河川の状況

事業②　社会環境整備事業
・当該地域における社会環境整備事業として、モニタリング調査で得られた成果を含んだパンフレットを作成し、施設に設置した。

得られた成果

昨年度に引き続き調査を実施したことにより、十勝管内の越冬期におけるタンチョウの生息・分布状況を連続複数年で把握することができた。昨年度は1月の確認羽数が少なかったが、今年度の調査により12～2月に最低でも約200羽が安定して越冬していることが明らかとなった。一方、北海道が令和6年1月24日に実施した令和5年度第2回タンチョウ越冬分布調査において、十勝管内におけるタンチョウ確認数は過去最多となり、前年度同期比12羽増の94羽、確認市町村数は6（前年度は4）であった。本事業の調査における1月の結果と比べると、確認数で90羽、市町村数で4自治体の違いがあった。これは、時間や日数等の調査手法が異なることが要因と考えられる。
来年度は継続して生息状況を調査するとともに本事業と北海道の両調査結果を精査し、確認地点等の情報共有だけでなく、北海道が実施する調査手法の改良に協力することで精度の向上を目指す。また、生息環境整備（主に社会環境整備）として、地域住民向けの小冊子作成やフォーラムを開催し、さらに生息地分散・生息環境整備に関する方策を関係者間で検討する場を設け、総括的な指針を提示する予定である。